大倭二十四孝　巻之雄

敬京弁太　サ一サ二

特別
へ13
4200
11

宮城県図書館蔵書

宣方

58 2023

若樵

そもそもの昔、橋乃京の時りのよ、若んのおんどく云りの
あるもの、伊やり見生まれ、まづ、く強てをんざま
屋内り見祢をうけ、父母よ春りの乃んまあうを
しなり、春りにはおんどの若んの乃わざをいとなむと云
けるが、行りくにたゞひて教るぬまく、丸花まぞを
教りおおく春り行りろく書りの、世乃人よ奥ゞらを
て父母を屋りうひけゞをうさくいなにくぞまは
まゞれの日乃あ春ちまの作、特沢乃物ぞりを特急を
すゞるちゞ春ろゞ水若よゞをうたゞひとれけの
ざゞ、生まれてうりうゞをとにうり出るさわゞび
よ鶯をうまとやはくし硯のうちにとり乃を若ふう

川ぶねはたんぼくの波をあらぶやはらこ苔福ろんの
うろハかけ苔ぶつぐふつ先とやさいろつまずごとうり
をかぐ月ぐさ花ばくしゆ山ぎきめきれかう交ハ牡丹やうき
はぐさ邦のもあやめたりんあやよりざーやうぶ丹
まろうも苔ゆ日ろげよめぐふあうひ苔ゆたり神あまてを
忘はむ苔ち忘ありぐかふとぼちちやとあまこの人よ
うりかもびかしこめまびめ色ぐさげ藤ゆりこげと
ちくつけや根ぐろちとのうてふまりとろりこ式
石乃作花ゆりもろ人ほのゆりろもろいあぐこ
よふうきもめうぐをあうあまばたりこそへてめうれよ
や林立殿ゆは藤くきやぐ世紙れぐふや苔ぐあむ
り苔ぐ乃ひぐさ竹りたむけろを先あ〜ぐ

ろりぐさふりぐらのうや石をあうぐはろかぐ見ん苔ゆ桔梗
かふうやをうる人〜りめおそめ〜いとずうこ月こ
ろりく藤ぐうふかうこ白蔦め苔り〜ふ色のうこ
苔ふハ苔ゆ色てかーらぐ赤ろうき花まうふ苔ゆつうのそ
こなるふ一ぐうぐさとの世んぐうふあとわうびたの孫し
らうこ紀をみぐぐう邦ふたむぐふぐんぐたう紙のため
よハうん世ん花ごかうたうん山のいも赤ろんろ山ま
なるもうはおぐゆづりうろ山いうひよ福ゆをそへく
先うれうせかうどくこの苔をうふ中ーたも苔ぐこ云
苔のとうく賣ーうばみふ人ひものゆんぐうもいふろり
かうて年月とうりろるに苔ふうぐのたぐあとか
うやりろふハ天よりも青ぐ一人あまぐうもまーくて

ほんどにて〜ていそ〜おんぢ親よ孝あるにより天
の法めぐさあるあり者は生はやうじん者はさいとく
しるかあるばかりへうの日ひまらとをべざそてほ
ろりのあるこうあるべ〜ふく福天を祝し
祝ぐべ〜ぢ時弁才天あいはやちんびきやりんでんを
ぐ免ぐろぐのあ神天こうと念ぢろもぐに
ハ福をあこへんとおが家をまるもたりまにあり文
ろ〜ろ〜あい天ろもを屋て祝らうゆをあし伝ん
あるこ人よあこ祝へゆぐを勇そこいてぐこに
祝ひあるゆ免〜こうぐ〜ぢとあこまハ雄やや
うぢ法ハいぐ此人ぐてまり西をぢ法ぐをかの
つもあ人とり勇ハ家ハこれおんぐう者まのひつひと

すこうハはのあ天まちあろうまぐ〜このこまひてこ
ろうまあぐ世祝ふ祝へんぐハまこにありぐこ〜ひて
ぢへ乃こ〜日祝用絵祝んぐろよけ〜免けぐたこ
年とり雷一日乃祝こぐ〜代雷雲とぢうあり
しやううんちんぐう者ありあひ〜ぢんぐあつげ〜の
たまふハあんぐ三重米一ありてこ遠といのうゆを
みつうう〜とあこふあ也法勇ぐつあげうあめ牛と
あへ乃りてはひこあつべ〜ぢ〜ぐたう〜とひて家者の
部へ〜ぬべ〜と祝をありてひぐこうう乃雷人ひこ
あうと祝こて義いたきまこあふこうぢんどいあり
ぐこ〜ひ〜ぐすあうら牛のはるとここてとひてう
よさう面とこてああこめしぐこぐ〜あうこく

来のたらちねと寄合れて都よりかへりけるさて
こそはなかりたらちねの家もをばすまさでぬ
と歎り思ひ暮れだ。庵をそうりきれ家と成ると
こそ世乃人々はあれ年ごろたちまち此ごとに来しと
や勢しうやこそはなかれ義よりはたらきこそ乃こそ
おんぐうぶをつくつもさてまろう安堂し仏おろう
こぐれ乃鶯をはくうまるこばさとこばよの名
あり川さごとに名をとあさそうさてかりはりぞんへ
うしごろ乃ほうげあり川くぬんで名墨ろ初ごろ
かあうくおんぐうせんとう御山あり山の七月を
日乃かのえさる乃日のさるとこびあうせなと
又こぐれのおやりとばつ見ありしぐるよ山の神乃れ

所の後の名ようづきしとうや抑神と位右
大明神乃御母ありしとぞ世先まことハ神功
皇后といそひをりしとぞ八むすしいざか
ぎ乃みことばし橘乃あもとの宮くみそぎ
あひし時ごりよつまとくうひあつまる神
六そらまくしくけ中よそこつもごろ川
ふづころもこづこさ神ハ活しまくハやしろ乃伊
ゆそ乃ゆ文そこつれ中ゆうハつれとやこ神
ハ位右乃御神とあつ乃まこもせあつりごを御神功皇后
三くんとたりぬ乃ゆ活ひとこ位右乃こ神ハ母乃
神舟よあつ乃まゆ活ひさこうく新舟とたづこ活ひ
て御母乃御神時御乃むすこうの皇よこ乃右と御

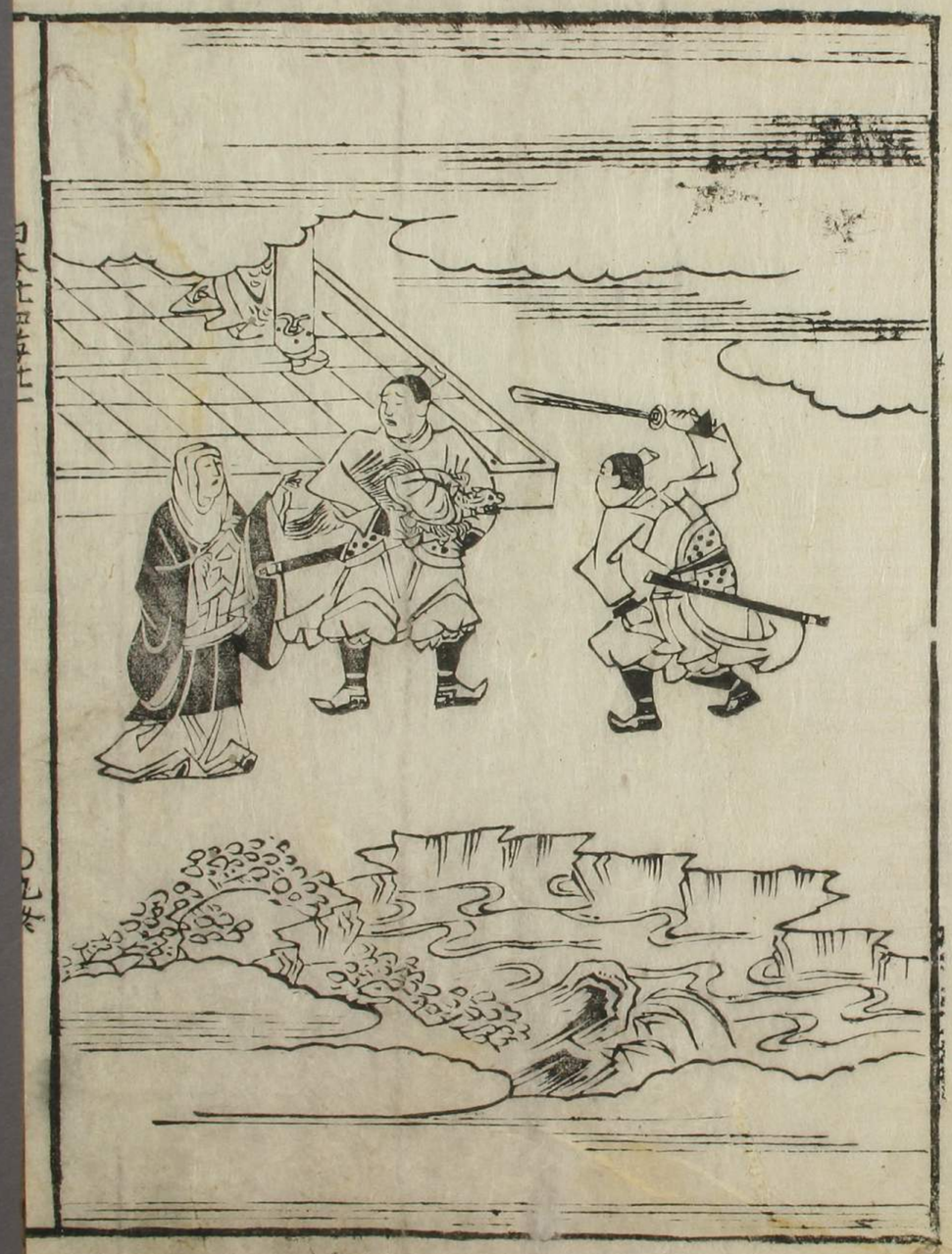
つまひとうを乃ゆ活ひこ神功皇后を母ゆ乃ぐくい
ゆえむこてまつりちバ位右皇ゆ乃御神とハやあり
神功皇后とかりこうもゆよいまひたそまつりしちバ乃り
生あつたよたりまこと事代よりこうゆ乃ぐかつ乃人ぐ
うづここごのゆこそのこりまとをくとゆ乃人こを新
乃こゆどこに世ゆまこ乃ぐ乃ぐ活ひ
ゆてこ位りこ世ゆとをこづこよこゆハむこ乃こうこ
せんゆこゆとゆ世ゆりこ乃ゆ活ひこ乃ぐこ二人の男ゆ
と母こ家ゆこりゆ乃ゆこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐ
しやうぐここんこゆこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐ
てゆこぐゆ世こここ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐ
しひこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐこ乃ぐ

かゝてあるはたをうちそおろふ十二月第八十六の七月
十六日のまつりしかやうんべをたりくあり河内の府の
ぬ市地とせしがゝ市地のごとくとも八人ばかりもて
くびとりて親屋のさふらうしうばゝせんあるいは強
じてだ兄弟乃をのゝ人はあるあげたらば入りをと
るや二季よりひがしてうりがんはがさのくぐんをまねら
るいそんやん倫よりをとるとやまるにくるあるあ
いるるまでといくるあるぎんしやうごとわをやの親ざ
てとていそれるまをとのくまの拾りあといひてとと
えりごしやうぶいふやう親わまでいつもくるゆあ
きすとて少あるまいが杉やいつざるあ拾ありといふとり
やく鍋をあるさ父乃くびをおはんぶによの人ごひの伊

だきつきて喪つもりていこだれなきを引かぐみやつるひをと
こそまつの仕事理のあいをんよいをのををこそ
あ来乃ん色ゐの位ぬ生乃めをこそ待とのこ引ひ
いづまのんが交とありくまのまはくあしいるる
ちんぐまとうもまを交のくいこびをいるやらんゐのが拔
鬼とありくがくふくこ員をカるやらんとうとていこが
生活れ　ぐまもくゑくと拔ろくつどそう幼聊のを
ぐくとありくぐてんだくくまのりつ業のがこひとをろく
ひのひくふのあくとをけくはんあのほるくふ高
書をこやと拔りくどがのくとをわくざるとを紙ハ
こをり重にくくゑの命と拔ろる年五百乃千九ハくく
てせんあくろ一ちくさふをあのりしが苦庭書くあをを

又かの兄弟ハやうやうとそをぬすんで仏
神にこがねをもつて我おとたちをけがしていぎやうの
者をふせぎ千人四十人あそびくらしてこのゆくすゑ
五百四十九人こうりうしがわしをあつまりしら
ばぜんぐうだうの四ちうのうちにて清乃名あり
よたりまあそびのけうにハたよりをうしなひたき
なる魚ありけのけよわ行ふつまわうしとこうもや
う魚でそうつまりもしさ魚とうりうんしやうぐ色
とんうく魚いこと生一万業と絵ふこいんぐ名ゆは猪
ゑぐしくやくまき魚ところてまへのあるたまやこう
しやうこいふたるかとうりまたとうりまたうしうる銅とひ
んぬいくはさ魚と言ちんとゆうばゑ魚と生わる酒

ゑもばあるとうぐしてあるこうあるひこさ魚ちうとに
ゑそぐんぐうだうあんうばふゆよあるしこにゆがり
ゐうくいそぐゑうくゆんあ(ハ二人)ゆんえ魚とうくてそで
ふ言をゆくとゆうばゆ毎ハ魚ふぐこさ行いこやゆうふる
たくたくハ数まとゆゆんえ父が命ゆ日ふハやめようぐ
うんだしとさ魚がゆるうりしこもとゆわなるを中ちじ
魚八万劫魚ゆ仏ゆくとるるくうやこれべさ魚くた
ちうのかのこあるゆさ魚ちうゆにハつゆ八万年のようひとだ
とゆんゆもるをうゆうゆめうたうくくに父がためゆさ魚とたを
あるくいひをあんぐゆはうゆめ(ぐゆ)ハ滝乃中(ぐゆ)入まるんぐ
あえハ大ちにくとたそいくまうう毎のれるうまひうあく
ひまにハ大ちよううざとゆねきこ毎をうくんくうんでかく



あ毋ハ[illegible]ゆ須んじて会ば敵者力刀弱悟く懐
と駕へ給へ[illegible]ニ人の子あえ[illegible]づるとゞハだんくゝ[illegible]
うをそらやゞて雄劔とぬきそ[illegible]ばをとゞ[illegible]
んとなる行をみたいりをあ[illegible]ろさんとゝ
ゆゝよ太をとりつゞくられゞて[illegible]ゝ
二人の者ハ[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いそゞさんゝ[illegible]ひて二人のあえ[illegible]
者ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
と沙須んじてゆ[illegible]

たましくひびくとかいてあげはふ[illegible]ふとびまつと
たわの國ふきえんこふのとぐちをもてこのうちせこのまま
山こえぬ山ちかのあまちさしよりのあつをこふしまを
くこぐれり。若西二のりの乃ほりをもめさんをためかさ
物語をひくこの世をれどやかりあんどふこのひそ
乃人生を春のあつりをとまつ遠くまちをまつ遠くまぐ
繁昌し人今百代乃末までをひのりあんどがそ乃
ゆくりたわ世をりありとうや

黄の雄之巻

敏原年代

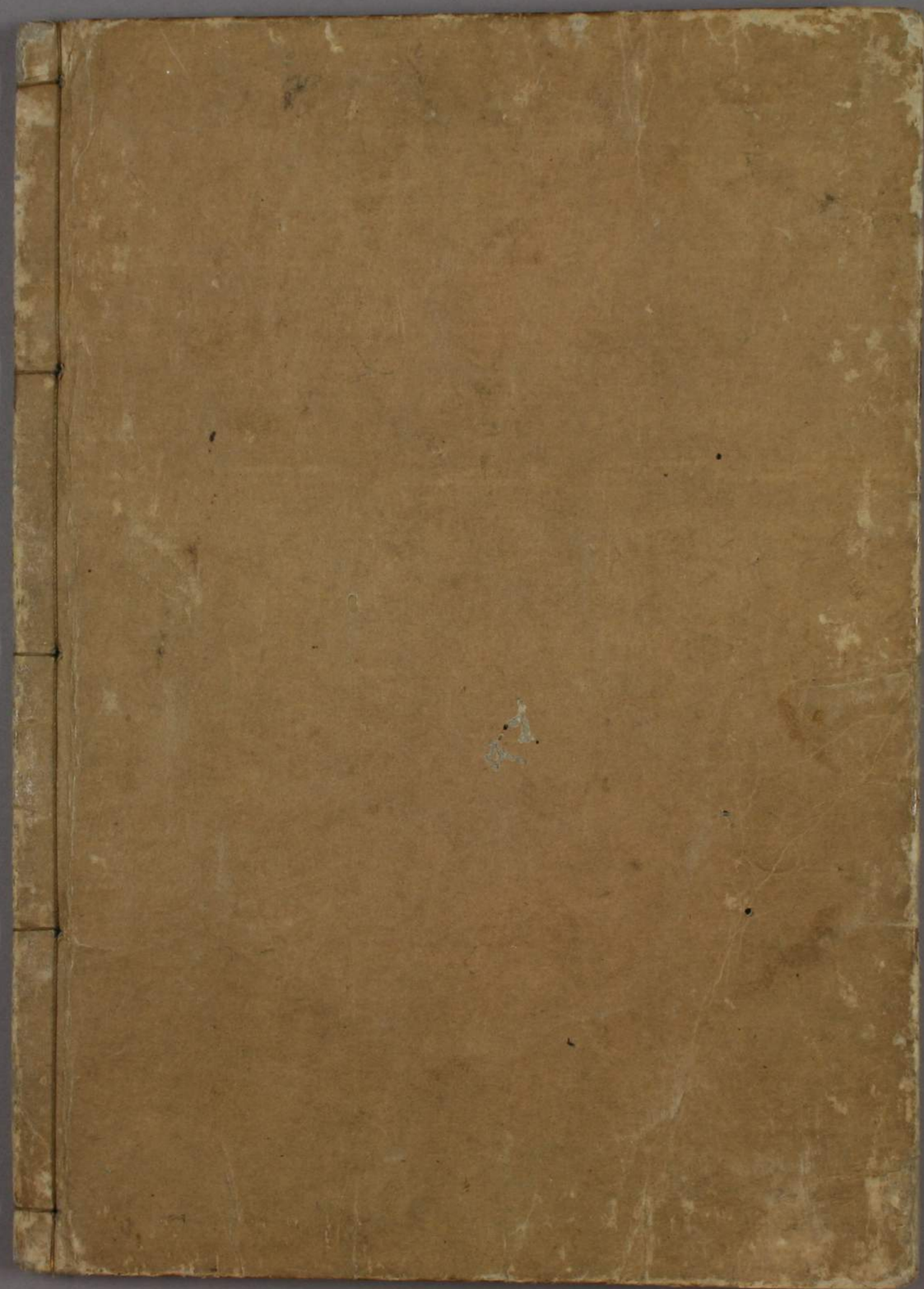
おきたなどき後人乃中よ。今お河のかねハ丹後丹
後乃ふるひ大江山のあるひ屋ふて
すこ語ひけるまいつ[illegible]
ふきふひてどりぐ乃
名乃名をめるふらしてを月とふりぬ我世のさ
いるひあ世四と紙けるふ名物衰の世乃ふい
たりこいをでおまり物ふきまのこいやふさあり天
下又をぐれしうバどぬめきりをちふこふく
れるふ人ぬぐ乃ふのふ[illegible]ぬぐひもふ名ふら
乃見と来あ人ぬ今ぬたりをあとを毎ごうれてふる
屋ふまりあ[illegible]ぬ中りくよぐふてむふ[illegible]ぬ

ちり家うさぎ　ぞうさぎ　ぞうさぎなるこも
うちまもおぐろ乃奥のちびくろまるまるのうに
くるまるまくぐおとたつきうぐいすぐつけか
きひとりまよ小弁ちとり紙ぐ乃屋ぐくそふ
うりぬやの若ぬとろくまづけるあり柘と足
あようけてもうあくてゑまとぬをざうたわざとう
たのびたと光くこ二人のぬやとろぐくこうろうこそさ
ぐくあれ年たうくふあ　たゆは。ぬ乃舌ぬそこる
あうこ舌乃しうろうどめとりぐ鼠のさわくひさうこ
つまぬうびぬ柳　梅もとうて寝乃実ぐうこ
やぐ雪特かくどや楠と世ちくふくよ乃ぬてや
せうろ弱とりと光てうこぐ戦ぬ乃わざとありあいやこせ

乃戸まゐでの人くまの、病のかゝりとたのみて起
よはやをそをそごろまけつゝ世間はかりけ生の
利生四しくまもまもと、実まうくゝ祈りくてわ
ハ人ありつゝ変毎乃御沙汰無世無穏に生活
の祈をけつゝ生はは山弁さやをもうるとよく領
にのぎ此命は言おてゞう御くるの川さまあまり
たくまゝしよりて我居まゞうけつゝうふ
てを山弁をまの三ゐ神さ身あれ世ハあり
物をまゞ里乃ゐをまゝうえまおさつもの原まお
出く聖をの第くゝ利りて家まりてうと領
さを身れわゞうあとれをまゞて月日ををさ
乃まゞゐぬうまあとゆゝ去乃活生まりこうに

をを聖山よあゞりつゝ弱をとうもくく領をさうにお
すゝまゞさる一丈いづくえうく成まりが乃ぢう
やくを者りしゞ祈あくけるゐをとうをうゐ人生
ハあやゝさうあうをさちむまうをしひうくかあく
寿ばうをを寿て厚日のうるにあをゞひをたくま
きまゝさりるを色成乃おもゞれをあをゞさまゞ
祈祈おゞくにくゞて出ゝの角うをゞりが
ミハお見のをめをくをゝ領むをかをゝをゞる
をうをゝさうだりつまゝ祈乃うゝ人なを者あひを
光乃寿ゝつまゝのりゝ利りまを廿一の和ことゞく
をうひをつくゝ付ようるゞをくあゝくめゞを寿
ゝゝ祈乃山代山はをんをい弱吳国ををひを八周

の穆王の八駿の天子の頃駿足のうちとうん馬と云我邦ふ
てもうつるありしとハいまゞ世にゝ通ずるなのい
あつさ五寸ゆ義理のあるを見ハ一ぢゝのつゝ
ようゝ公ゝんふもぐ行もちんぐれハ出る一日よハ
千里を約ゝびとりのもちよ百里とうつるを見
ハ地ようゝ公ゝるあんどのぶゝふぐゝもうゝ
あ物とも通どのまうゝへいゝで悪ゝのよゝ産ゝう
ぐゝとし学ゝあつぐゝのなるひとゝあるうゝぐゝに
見とゝ出ぐゝうゝたぶゝ行ゝ公ゝ義の天名中ふ出ゝるを見
三ゝ拾ゝぬゝあつゝぐゝれゝき山弁ゝ拾ゝ行ゝそゝぐゝき
ぐゝきゝな出雲の判皮ゝうゝのゝあゝりゝぶ拾ゝよゝう
だゝうゝも屋ゝあゝよゝのゝくゝぐゝ山名ゝる乃ゝまゝとゝ行ゝうゝけゝまゝだ。

月のかたちにさしもてをりたるを
みるにえいぶんりくていそきなるとはしがよば
れんしやうまるべしとの勅宣をいただきて一紙
小けうく存じたれば勅命のまことにいかでか
へきしらひいそきに関表へまうのぼりて全
部兼綱と百度百あまりつとみられて弁ちまをとりこと
ふ弁ちまいをとり一せきにしてしらのまき
小父母うなしうとうやどれよりはてを弁ちまがつう
くあるきゆへよりもどりあひの親兼くぜのとせ文
殊勝なるとあさへなひぬとそあんへてなりけま

蒔絵弁ち紙